

サロンでのサステナビリティ

LGBTQ+について 学んでみよう！

サロンならではのアプローチで社会課題を知り、みんなが幸せを感じられるサステナブルな社会の実現を、美容師が日常生活や仕事を通じて行える**LGBTQ+**にやさしい行動のヒントを学びましょう。

『LGBTQ+の課題』美しい地球とともに



サロンでのサステナビリティ

LGBTQ+ とは？

1. LGBTQとは？ Qが示しているのは？

男性と女性が愛し合う「異性愛」以外にも、さまざまな「性」があります。

これは最近になって新しく出てきたわけではなく、人類のどの時代、どの地域にも一定の割合でそうした人々がいました。

しかし、現代ではこの「多様な性」を示すものとして、LGBTQという言葉が使われています。LGBTがよく知られている半面、QがついたLGBTQはまだまだ認知されていない印象です。

LGBTQとはどんな意味か、Qとは何を示しているのかを理解するには、まず人の性が四つの要素で構成されていることを理解する必要があります。

『LGBTQ+の課題』美しい地球とともに

LGBTQの意味 Qは何を指している？

L Lesbian
レズビアン

女性を愛する女性



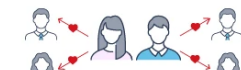
G Gay
ゲイ

男性を愛する男性



B Bisexual
バイセクシュアル

女性または男性、あるいはその他の二つ以上の性に惹かれる人



T Transgender
トランスジェンダー

身体の性（身体的性）と心の性（性自認）が異なる人



Q

Queer クィア

異性愛者、及びLGBTの四つ以外のさまざまな性的指向・性自認の人の総称

Questioning クエスチョニング

自分自身の性的指向や性自認がはっきりしていない人、または意図的に決めていない人



LGBTQの関連用語

SOGI (ソジ) … 異性愛の人も含めて、「すべての人の属性を表す略称」

カミングアウト … 自分の性自認や性的指向などを他の人に伝えること

アウティング … 本人の同意なしに、他の人が勝手にその人の性自認や性的指向を伝えてしまうこと

サロンでのサステナビリティ

LGBTQ+ とは？

『LGBTQ+の課題』美しい地球とともに

1) 人の性を構成する四つの要素

人の性を構成する四つの要素は、以下のものです。

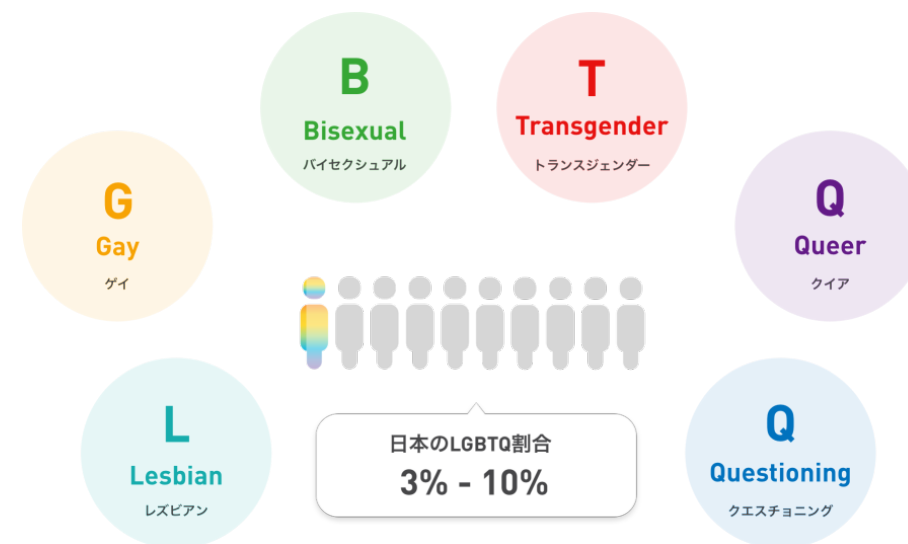
1. 身体的性
2. 性自認
3. 性的指向
4. 性表現

身体的性とは、生まれた時の身体的な性です。男性器がついているといった身体的特徴を指します。

性自認は、自分自身の性を男性か女性かその両方、あるいはその他かという、自分自身の性について、自分がどう認識しているかです。これは、上記の身体的性と一致しない時もあります。

性的指向は、好きになる相手が同性か異性かあるいはその両方、またはその他かという、自分が好きになる相手の性のことです。

性表現は、服装や髪形、しぐさ、言葉遣いなどを通して、自分がどのような性であると表現したいのかです。例えば、身体的性や性自認が男性であっても、女性の服を着て女性的な表現をしたいという人もいます。



サロンでのサステナビリティ

LGBTQ+ とは？

(2) LGBT/LGBTQの意味

人の性を構成するこれらの要素を把握すると、LGBTやLGBTQの意味が見えやすくなります。

LGBTの「L」は**レズビアン**：Lesbian（女性を愛する女性）、
「G」は**ゲイ**：Gay（男性を愛する男性）です。「B」は**バイセクシュアル**：Bisexualとって、女性または男性、あるいはその他の、二つ以上の性に惹かれる人のことです。「T」は**トランスジェンダー**：Transgender。身体の性（身体的性）と心の性（性自認）が異なる人です。

このうち、L・G・Bは性的指向（どの性を愛するか）、Tは性自認（自分自身の性）にあたります。

日本ではこのLGBTの四つが比較的、知られています。しかし、実は、もっとさまざまな性があるのです。性的指向も、はっきり同性愛、異性愛とくくれない人もいます（基本的には異性愛でも、ごくまれに同性にも惹かれるなど）。

性自認も、男性にも女性にも当てはまらないという人、流動的な人（昨日は男性、今日は女性と移り変わる人など）、さまざまです。

『LGBTQ+の課題』美しい地球とともに



つまり、いわゆる「セクシュアルマイノリティー（性的少数者）」は、LGBTの四つだけではなく、もっとさまざまな分類があるのです。それを示すのが、LGBTQという、「Q」を加えた表現です。

LGBTQという時の「Q」はクィア（Queer）、またはクエスチョニング（Questioning）を意味します。

クィアは、日本では異性愛者、及びLGBTの四つ以外のさまざまな性的指向・性自認の総称的な意味で使われることが多いようです。

クエスチョニングは、自分自身の性的指向や性自認がはっきりしていない人、または意図的に決めていない人のことです。

このQの部分でLGBTQIAやLGBTQ+と表記する人もいます。「I」はインターセックス（Intersex）、「A」はエイセクシュアル（asexual）、「+」はLGBTQ以外の多様な性を表しています。

サロンでのサステナビリティ

LGBTQ+ とは？

(3) LGBTQの関連用語

LGBTQをより深く理解する言葉に、**SOGI**（ソジ）、**カミングアウト**、**アウティング**があります。

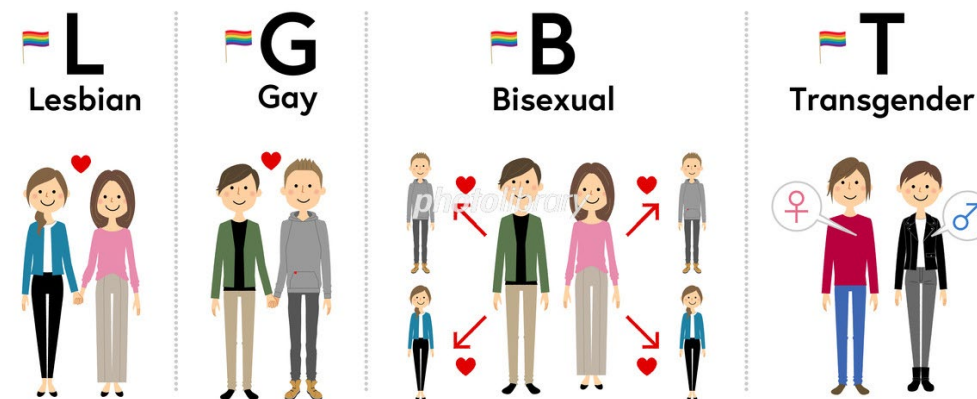
SOGIは、性的指向（Sexual Orientation）を示す「SO」と、性自認（Gender Identity）の「GI」を合わせた言葉です。これはLGBTQのことではなく、異性愛の人も含めて、「すべての人の属性を表す略称」です。

その人の性的指向や性自認などをからかったり、いじめの種にしたりすることを**SOGI（ソジ）ハラ**といいます。

カミングアウトは、自分の性自認や性的指向などを他の人に伝えることです。差別や偏見が多い中で、これはなかなか容易なことではありません。

アウティングは、本人の同意なしに、他の人が勝手にその人の性自認や性的指向のことを伝えてしまうことです。アウティングされた人がショックで自殺した例もあり、アウティングは決してあってはならない行為です。

『LGBTQ+の課題』美しい地球とともに



サロンでのサステナビリティ

LGBTQ+ とは？

2.LGBTQ+にまつわる二つの課題

LGBTQ+は「多様な性」を示す言葉のひとつであり、LGBTQ+を定義することは現代社会が「多様な性」を受け入れようとする姿勢の現れでしょう。

LGBTQ+はSDGsのなかに直接規定されてはいませんが、LGBTQ+の方たちが生きやすい社会をつくることは、「誰一人取り残されない」というSDGsの精神に沿ったものとも言えます。

ですが、実際は多くの課題があります。とくに法・制度上の課題と「多様な性」の認知度の低さによる課題は大きな壁です。

『LGBTQ+の課題』 美しい地球とともに



サロンでのサステナビリティ

LGBTQ+ とは？

『LGBTQ+の課題』 美しい地球とともに

(1) 法・制度上の課題

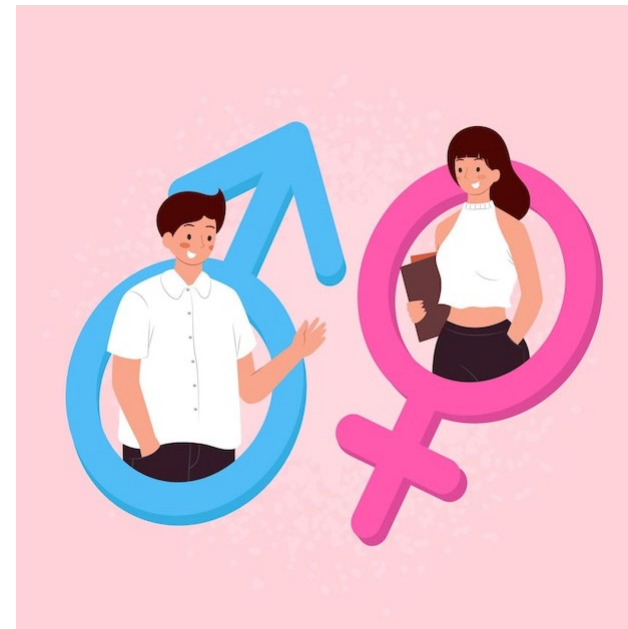
日本ではいくつかの地方自治体が「同性パートナー制度」を作っていますが、国全体ではまだ整備されていません。

現在の日本国憲法の24条の中で、「婚姻は、両性の合意のみに基いて成立し」という文言があります。これは一方の側からの強制、押しつけであってはならないという意味で書かれているはずで、同性婚を禁ずる意味合いのものではないはずですが、「両性」とあるからには同性婚は含まれないという意見もあります。

14条はすべての国民は平等で、性別などで差別されないとした「平等原則」です。でも、今の日本では同性婚はまだ認められていません。そのために公営住宅と一緒に応募できない、保険金の受取人になれない、病院で「家族」としての扱いを受けられず面会もできない時もあるなど、いろいろな問題があります。

また、ラブホテル、プール、スポーツジム、温泉などの施設などで、同性カップルやトランスジェンダーの人などが利用を断られることも多くあります。こうした面も含めて、LGBTQの人々がそれだけの理由で行動を制限されるようなことがなく、また、同性であれ、誰であれ、愛し合う2人が自由に、社会的に、共に暮らしていける法・制度を整備していくことが求められています。

具体的には、LGBTQの人々に対する差別を禁止する法制度を作ることや、同性婚を法的に認めることなどが求められています。



サロンでのサステナビリティ

LGBTQ+ とは？

『LGBTQ+の課題』 美しい地球とともに

(2) 「多様な性」の認知度の低さによる課題

LGBTQの人々や子どもたちに対して、学校でのいじめや職場でのSOGIハラなどがたくさんあります。

心無いいじめや差別の中で、生きていく展望を奪われて自殺に追い込まれる人々・子どもたちもたくさんいます。LGBTQの人々の自殺率の高さは日本だけではなく、欧米でも指摘されています。

「多様な性」は、元々自然界の中に当たり前存在しています。社会の中から、LGBTQを理由にした心無いいじめや差別はなくさねばなりません。

そのために大切なことの一つは、教育の中でLGBTQについての正しい理解と知識を伝えていくことです。



サロンでのサステナビリティ

LGBTQ+ とは？

企業の取り組み

2020年6月に改正労働施策総合推進法（パワハラ防止法）が施行され、SOGIハラや、アウティングの防止が企業に義務付けられました。ですが、企業の取り組みは、LGBTQ+について全く何もやっていない企業、少し言及するだけの企業、社内研修などで取り上げている企業など、大変バラつきがあります。各企業の取り組みを見ると、「差別禁止の明文化」や「経営層の支援宣言」などが多いようです。これらに後押しされて具体的な施策を始めていく企業も少なくありません。その一方で、「優先順位が高くない」「何をすればいいかわからない」などで、まだ具体的な取り組みを始めていない企業も多いのです。

『LGBTQ+の課題』美しい地球とともに



サステナビリティのヒント

サロンでのサステナビリティ

サロンでのLGBTQ+

レズビアン (Lesbian)・ゲイ (Gay)・バイセクシャル (Bisexual)・トランスジェンダー (Transgender)と「性的少数者」と「他にも様々」のQ+の方は、およそ10%とされています。お客様・スタッフの中におられ、そんな方々がダイバーシティ (多様性) に配慮して社会・ヘアサロンを求めています。

『LGBTQ+の課題』美しい地球とともに

セクシュアリティを構成する要素



サロンでのサステナビリティ

サロンでのLGBTQ+

4. 多様性のある社会の実現へ

人間は一人一人違います。顔も身長も体重も十人十色ですし、心もそれぞれ違います。それが当たり前のことです。なぜ、性に関してだけ「異性愛じゃないとダメ」と一つだけの形に決めつけてしまうのでしょうか？ LGBTQを認めたからと言って、誰かが迷惑するのでしょうか？ 異性愛の人もある、同性愛の人もある、その他いろいろな性の人々がいる……それをお互いに認め合い、尊重し合うこと、それが「多様性」です。みんなが同じ「型」に押し込められて、ギスギスと生きるよりも、一人一人が違う、それぞれの個性を伸び伸びと生かしていただける方がずっと楽しいと思いませんか？

『LGBTQ+の課題』美しい地球とともに



サロンでのサステナビリティ

サロンでのLGBTQ+

『LGBTQ+の課題』美しい地球とともに

- からだの性とところの性が異なる人がいると認識する
- 異性を好きになる人も、同性を好きになる人もいると認識する
- 恋愛をするのが当然とは限らないと認識する
- お客様を見た目だけで、男性／女性と判断しない
- 彼氏・彼女を「恋人・パートナー」と言い換える
- 先入観を持たずにお客様の望むヘアスタイルをヒヤリングして提案する
- 男らしい・女らしいを言い換える
- プライベートの話を無理強いしない
- カルテを見直してみる、性別欄を「男性・女性」だけに分けない。そもそも必要でしょうか
- 雑誌を出すとき、男性誌・女性誌を決めない
- ダイバーシティ（多様性）に配慮したスタッフ教育を行う

